

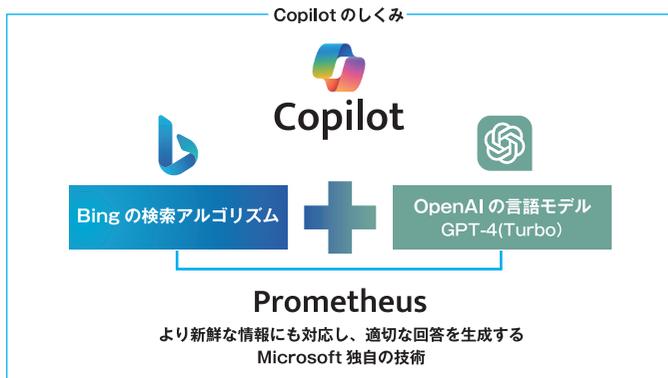
Microsoft Copilotは生成AIのひとつ

Keyword Copilot / Edge / Bing / Microsoft 365

Copilotとは、Microsoftが提供しているAIコンパニオンのこと。テキストや音声、画像を使用してAIとチャットをすることで、適切な情報を見つけたり、オリジナルコンテンツの作成をしたりすることができます。また、ドキュメントやウェブページの要約を作成するなど、生産性向上にも寄与します。WindowsのデスクトップやEdge（ブラウザ）、Bing（サイト）から無償でアクセスできるほか、Microsoft 365アプリから使用できる有償の「Copilot Pro」や企業向けの「Copilot for Microsoft 365」などが提供されています。

生成AIについて

生成AIは、文章やメールを作成したり、プログラミングのコードの作成、文章の要約、修正などさまざまなタスクを実行することができます。また、大量のデータを使ってトレーニングしているため、さまざまな情報を提示することも可能です。ただし、検索エンジンとは違い検索する機能がないモデルでは最新情報を入手できず、望んだ回答が得られない場合もあります。



出典：「Welcome to Café Copilot」(日本マイクロソフト)

Microsoft Copilot でできること

MicrosoftのCopilotはさまざまなタスクに対応するほか、ユーザーにパーソナライズされた支援を提供することを目的として作られています。そのため、大規模言語モデル本来の機能に加え、ウェブなどの最新情報やMicrosoft 365に保存されているデータを組み合わせて最適な回答を得ることもできるのです。

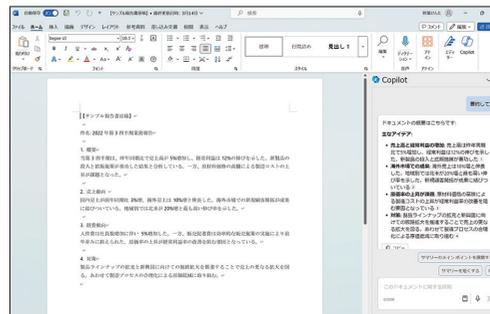


Copilotを使えば、ニュースの要約を確認したり、画像を生成したりできます。

プロンプトで Copilot に指示をする

Copilotに必要な内容を伝えるために使われる指示や質問のことを「プロンプト」と言います。

たとえば「議事録の要約を作成して」というようなプロンプトを送信すると、Copilotはプロンプトの指示に沿った要約を作成し表示します。出力された結果がイメージと異なる場合には、会話を通じて出力結果をブラッシュアップしていくこともできます。



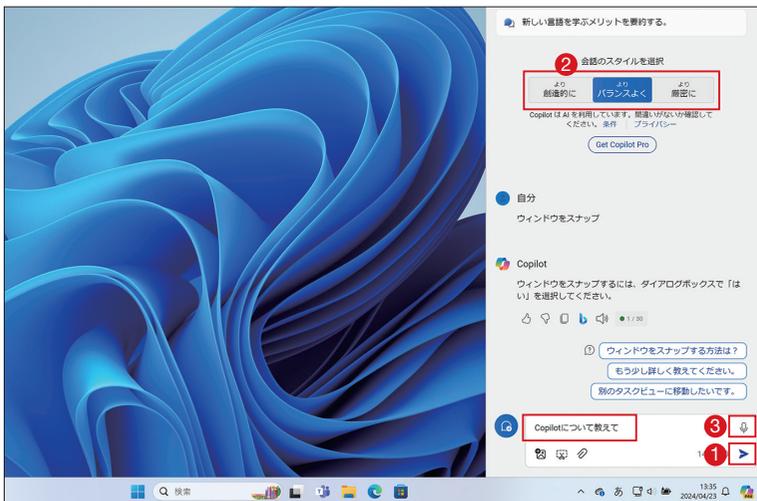
Word of Copilotの画面。サイドバーに表示されたテキストボックスに Copilot への指示を入力します。

Copilot in Windowsの画面と使い方

Keyword Copilot in Windows / サジェスチョン / スクリーンショット

Copilot in Windowsは、Windows OSと連携した対話型AIアシスタントです。Copilot in Windowsを起動すると画面横にサイドバーが表示され、そこからCopilotを使用できます。テキストボックスにさまざまな質問や話題などのトピックを入力することで、回答を得たり会話したりすることができます。

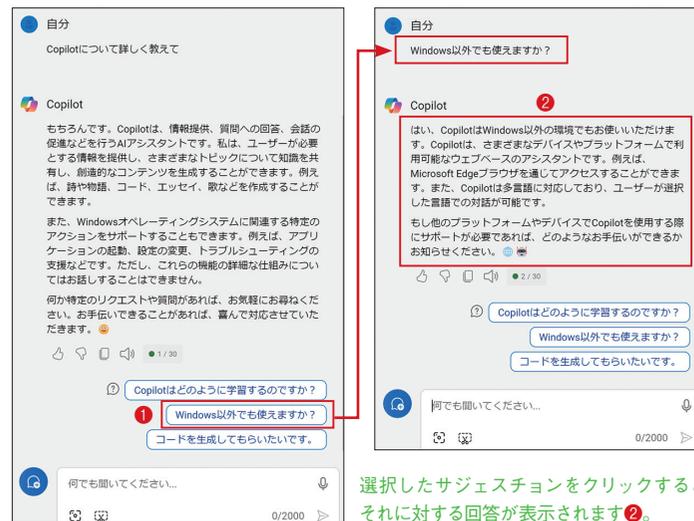
画面の構成と使い方



テキスト入力ボックスに質問などを入力し①、➤アイコンをクリックします。Copilotとの会話のスタイルを変更する場合には、「会話のスタイルを選択」②欄にある「より創造的に」「よりバランスよく」「より厳密に」の中から適したスタイルを選択します。Copilotでは音声入力③も使えます。また、画像やスクリーンショットを追加し、質問することもできます。

サジェスチョンを活用する

Copilotの回答の下には、さらに回答を深掘りできるサジェスチョンが表示されます。サジェスチョンを選択すると、より深い情報を知ることができます。



選択したサジェスチョンをクリックすると①、それに対する回答が表示されます②。

応答を停止する

間違えてCopilotに質問・指示をしてしまった場合、「応答を停止して」をクリックすると、回答するまで待たなくても応答を中止できます。



Copilotが回答を生成中に「応答を停止して」をクリックします。

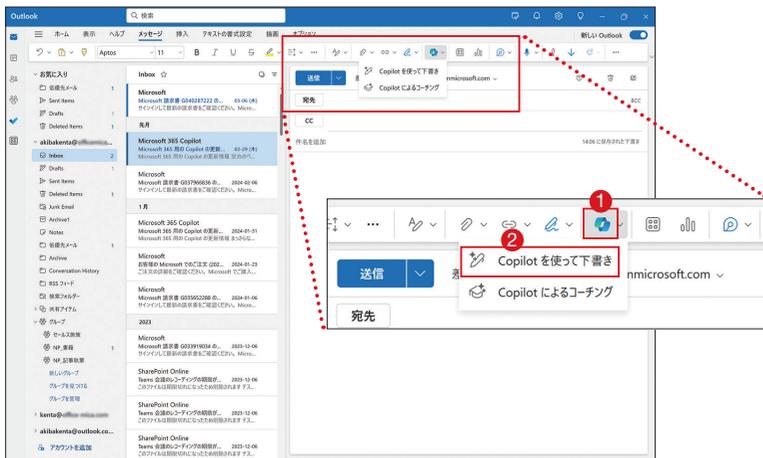
OutlookのCopilotを使ってメールの下書きを作成する

Keyword 下書き / トーン / 長さ / 翻訳

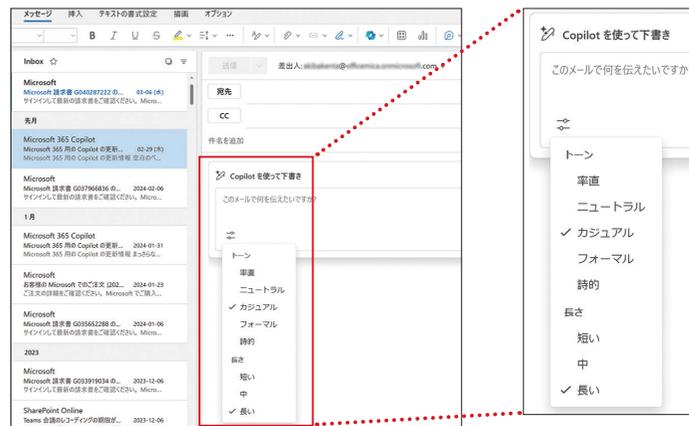
OutlookのCopilotは、メール処理の効率化やミスの防止に役立つさまざまな機能を備えています。ここではOutlookのCopilotについて詳しく説明していきます。

OutlookでCopilotを使う

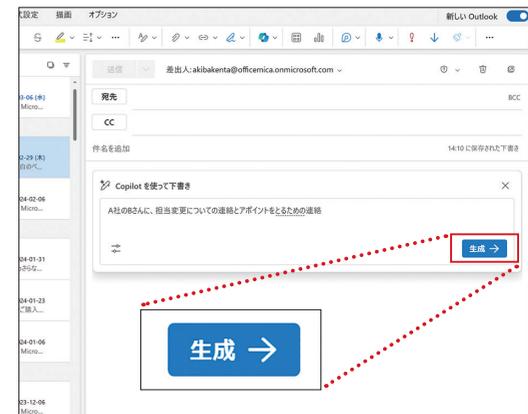
新規メールや返信メールを作成する際、Copilotを活用しましょう。ここでは「Copilotを使って下書き」機能を使って、メールの本文の下書きを生成する方法を紹介します。



Outlookのメール作成画面で「Copilot」アイコンをクリックし①、「Copilotを使って下書き」を選択します②。



Copilotのテキストボックスに、プロンプトを入力します。画面下のアイコンをクリックすることで生成する文章のトーンや長さを設定できます。



プロンプトにメールを出す相手や目的などを入力し、「生成」ボタンをクリックします。

Memo

OutlookのCopilotは、職場または学校のアカウント、およびOutlook.com、hotmail.com、live.com、msn.comのメールアドレスを使用するMicrosoftアカウントのみをサポートしています。

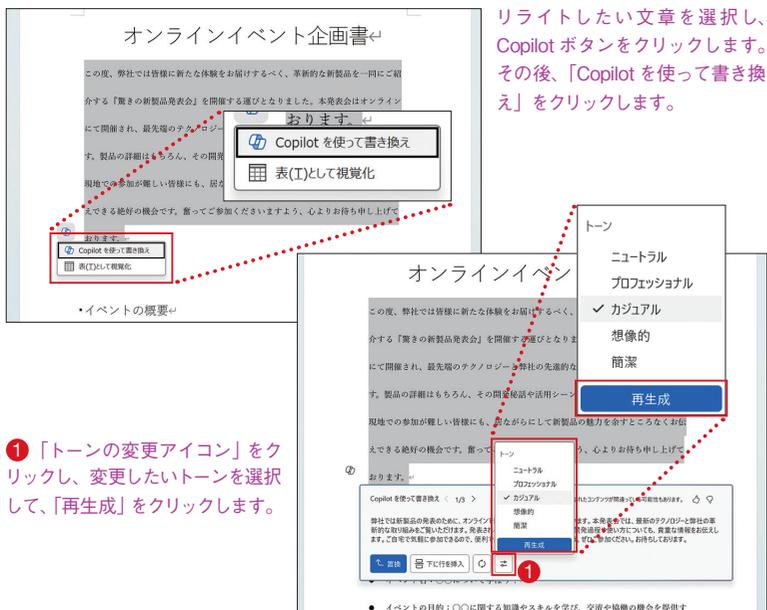
Wordで作成した文章を ブラッシュアップする

Keyword ブラッシュアップ/トーン/フォーマット

WordのCopilotを使えば、文章のトーンを変更したり、適切な書式や追加したりした方がいい内容などアドバイスが受けられるようになります。

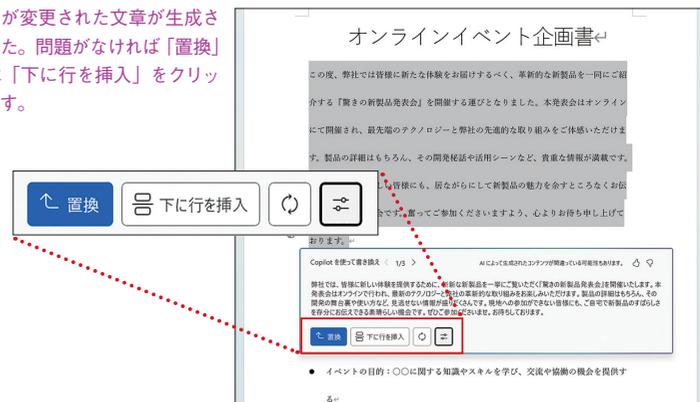
Copilotで生成した文章に置き換える

Wordにはさまざまな校正機能があり、それらを使うことで文章をブラッシュアップすることができます。しかし、文章のトーンを変更するなど、細かい修正には対応できません。WordのCopilotを使えば、トーンの変更もワンクリックで行えます。



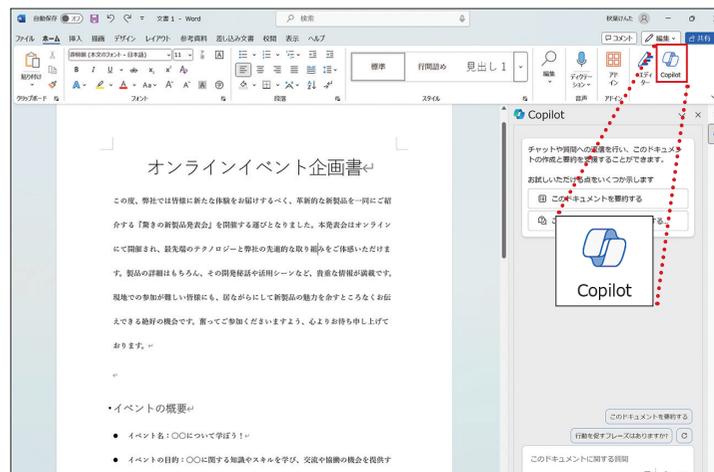
① 「トーンの変更アイコン」をクリックし、変更したいトーンを選択して、「再生成」をクリックします。

トーンが変更された文章が生成されました。問題がなければ「置換」または「下に行を挿入」をクリックします。



フォーマットが適切か尋ねる

文章をリライトしても、フォーマットが不適切であったり、必要な項目が入っていないとすると、趣旨がうまく伝わりません。ここでは、フォーマットのチェックや必要な項目がないのかなどを確認する方法を紹介します。



チェックするドキュメントを開き、「ホーム」リボンにある「Copilot」アイコンをクリックします。

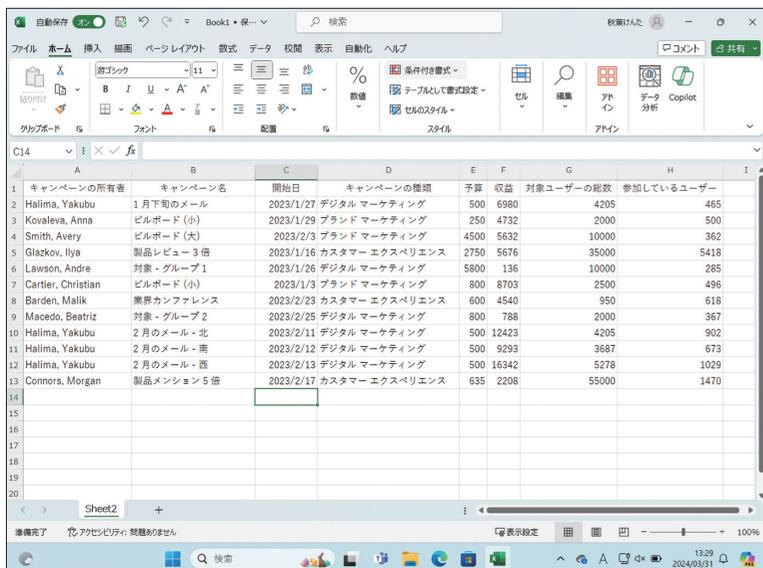
Excelのデータ分析で Copilotを使う準備をする

Keyword テーブル／書式設定／見出し

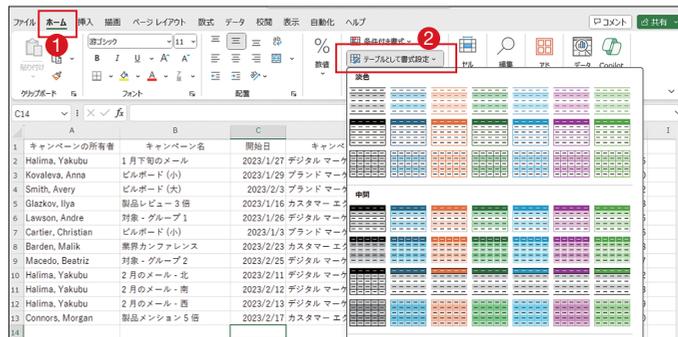
データ分析やセルの操作など、ExcelでCopilotを使う際にはあらかじめ準備が必要です。ここでは、Copilotを使う前にやっておくべきことについて紹介します。

ExcelのCopilotを使うための準備をする

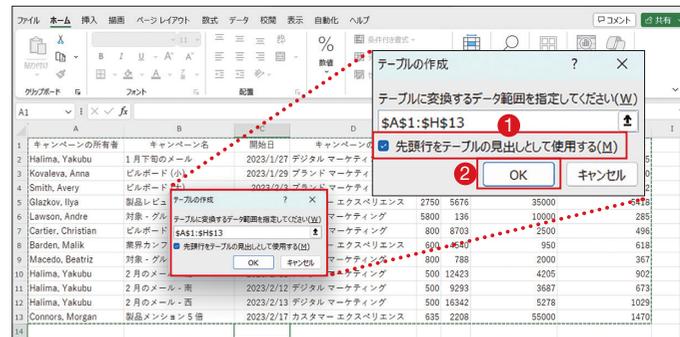
ExcelでCopilotを使うには、データを含む「テーブル」を作成する必要があります。ExcelのCopilotで分析しようとしている表は、必ずテーブルに変換してください。



Excelでデータを開きます。



「ホーム」を選び①、「テーブルとして書式設定」をクリックし②、テーブルの書式を選択します。



範囲の確認画面が出ます。先頭行が見出しの場合、「先頭行をテーブルの見出しとして使用する」のチェックボックスをオンにして①、「OK」をクリックします②。



テーブルが作成されました。このテーブルに対して Copilotの処理をしていきます。